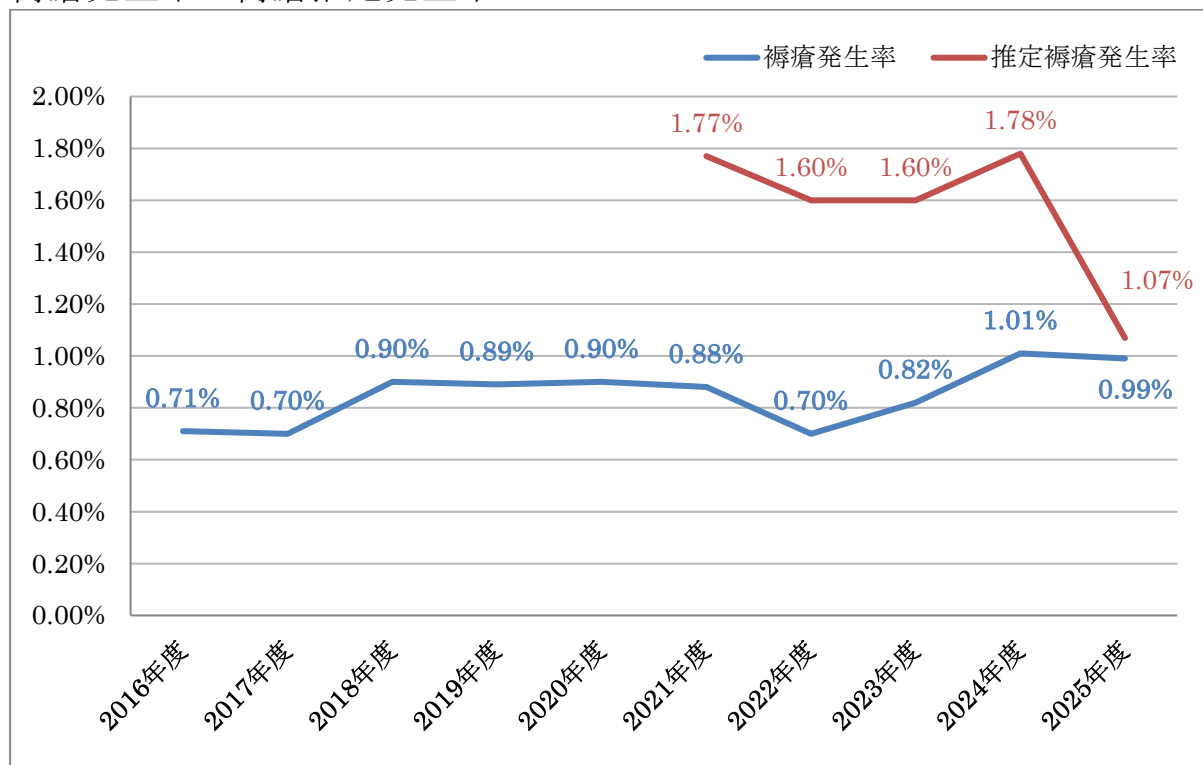


褥瘡発生率・褥瘡推定発生率



※2020年度より褥瘡発生率とともに褥瘡推定発生率の算出を開始

褥瘡は患者の QOL の低下を招き、在院日数の長期化や医療費の増大にもつながる。そのため、褥瘡対策は医療、看護の重要な評価指標のひとつである。

褥瘡対策実務委員会（以下、実務委員会）により、積極的な予防策、早期の治療・ケアを多職種で連携を図りながら実践している。さらに、褥瘡発生危険性が高い患者に対して、皮膚・排泄ケア認定看護師(WOCN)が積極的に関わることで、各病棟の褥瘡対策に関する意識や知識、技術の向上につなげている。2020年度より「日本褥瘡学会用語定義」に準拠し、褥瘡発生率とともに褥瘡推定発生率も合わせて算出している。

当院の褥瘡発生率は今まで1%を下回っていたが、2024年度は増加傾向に転じた。そこで褥瘡対策実務委員会、看護部、WOCNが協働し、各部署の褥瘡リンクナース、看護職員一人ひとりに褥瘡発生リスクアセスメントおよび褥瘡予防技術(ポジショニング、予防的スキンケア等)を再教育した。そして WOCN が毎日褥瘡予防ラウンドを実施し、褥瘡予防管理の状況の評価し、指導内容の定着に向けて取り組んだ。さらに、高機能エアーマットレスの一部を中央管理化し、全部署がタイムリーに使用できるよう体制を整えた。今後も褥瘡発生率・褥瘡推定発生率の低下を目指すとともに、褥瘡ケアの質向上に向けて積極的な褥瘡対策に取り組んでいきたい。

データ提供 褥瘡対策実務委員会
看護部 看護外来